

令和 6 年度

超高齢社会に対応する公共私連携に関する万国津梁会議（第 1 回）議事録

日 時：2024 年 10 月 21 日（月）14:30～17:00

場 所：沖縄県庁 6 階第 2 特別会議室

出席者：金岡省吾委員長、松本小牧委員、藤原薫委員、神戸貴子委員、栩野浩委員、田村浩介委員
金城美香委員、岡本慎哉委員、豊見山亜紀子委員

1. 開会

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、ただいまより「令和 6 年度 超高齢社会に対応する公共私連携に関する万国津梁会議」を開催いたします。

私は、本日、司会を務めます沖縄県保健医療介護部地域包括ケア推進課の高嶺と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

2. 知事挨拶

まず初めに、開会に当たりましてご挨拶となります。本日は、玉城知事は別公務により参加できま
せんでしたので、政策調整監の小川のほうから知事挨拶をさせていただきたいと思ひます。宜しくお願ひ
いたします。

【小川和美政策調整監】

みなさんこんにちは。政策調整官の小川と申します。宜しくお願ひします。本日、知事が県外出張と
なっておりますので、私の方で知事の挨拶を代読させていただきます。

<知事挨拶>

はいさい、ぐすーよーちゅーうがなびら。本日は、お忙しいなか、超高齢社会に対応する公共私
の連携をテーマとする万国津梁会議にご出席いただき、ありがとうございます。また、皆さまにおかれま
しでは、委員への就任をお引き受けいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、沖縄県におきましては、沖縄 21 世紀ビジョンに掲げる五つの将来像を実現し、新時代の沖縄
を構築するための更なる政策の推進に向け、平成 31 年 4 月に万国津梁会議を設置し、これまでに 12
のテーマについて有識者の皆さまからご意見をいただいたところです。

今年度は、高齢化の進展等に伴い生ずる社会課題の解決に向けて、超高齢社会に対応する公共私
の連携を新たなテーマとして選定いたしました。沖縄県の高齢化率は、令和 5 年 10 月時点において 23.5%
ですが、令和 32 年（2050 年）には 33.6%となり、県民の 3 人に 1 人が高齢者となると見込まれて
いることから、今後は従来の枠組みを超えて、「人と人」「人と社会」がより一層支え合い、生きがいや役割
を持ち、助け合いながら生活を継続していける地域づくりが重要となります。

このため、沖縄県では、地域の多様な主体、公・共・私連携し、協働した地域づくりを推進するた
めのプラットフォームの構築に取り組むたいと考えております。

委員の皆さまにおかれましては、高齢者 1 人ひとりが自分らしく暮らし続けられる地域共生社会の実
現に向け、既存の枠にとらわれない自由なご意見を賜りますようお願いいたします。ゆたさる

40 ぐとう、うにげーさびら、いっぺーにふえーで一びる。

41 令和6年10月21日 沖縄県知事 玉城デニー

42 本日は、少し長い時間になりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございます
43 した。

44 3. 出席者紹介（資料1）

45 【事務局】

46 小川政策調整監、どうもありがとうございました。会議に先立ちまして、本日の出席状況についてお
47 伝えいたします。本会議の委員は9名となっております、本日は委員全員の皆さまのご出席をいただ
48 いております。

49 本日は初回でございますので、それぞれの委員の皆さまに一言ご紹介を、自己紹介をお願いできれば
50 と思います。資料1の出席者の名簿に沿って、私のほうでお名前をお呼びいたしますので、委員の皆さ
51 まは自己紹介を1分程度でお願いできればと存じます。

52 ご発言の際には、お手元のマイクがございますが、トークボタンを一度押していただくとマイクがオ
53 ンになりますので、トークボタンを押して、赤色の点灯がマイクがオンになっている状況ですので、ご
54 発言をお願いできたらと思います。ご発言終了後は、再度押してマイクをオフにしてくださいよう願
55 います。

56 それでは、私のほうでお名前をご紹介させていただきたいと思います。まず、はじめに岡本慎哉さま、
57 お願いいたします。

58 【岡本委員】

59 岡本慎哉です。宜しくよろしくお願いいたします。理学療法士として30年ぐらい病院で勤めたあと、2015年
60 に地域支援事業が始まった時に、県内の北中城村で介護予防等に携わりました。その後、沖縄県介護保
61 険広域連合で5年仕事をして、県内の市町村のうち、29の人口が比較的小さい町村を中心とした広域連
62 合で各市町村の地域支援事業の推進をサポートするという業務に従事しました。3月に退職して、今は
63 いくつかの市町村の介護予防事業に少し協力すると、県の独自事業のサポートをしています。どうぞ、
64 宜しく申し上げます。

65 【事務局】

66 ありがとうございます。続きまして、金岡省吾さま、お願いいたします。

67 【金岡委員】

68 熊本大学で地方創生担当の副学長をしております金岡と申します。20年前に富山大学から大学の教員
69 生活が始まりましたが、その前は、金融機関の研究所でレポート書いていました。当時、レポートを書
70 いても、地域が動かないとの壁にぶつかり、実際に地域を動かしたいとの思いで、大学の地域連携担当
71 として、現在では中小企業庁さんがローカルゼブラと名付けるような若い企業、ラーメン屋さんよう
72 な地域の零細企業を集め、企業行動として地域課題を解決し、地域を動かすという取組を展開していま
73 す。さらに、「越境」と言うのですが、地方企業と大手企業の協働による地方創生が出現し始めました。
74 こうした活動をなぜ大学が取り組むのかと申すと、若い世代は東京、博多、熊本中心部に社会移動して

79 しまいますが、高校生・大学生に地域課題を解決する地域の姿を見てもらうことで、若い人たちが地域
80 に戻ってきたいとの意識変容、行動変容を企図しています。私は専門領域が違うかもしれませんが、皆
81 さん方から公共私、勉強させて頂きたくいただきたく参加しました。宜しくお願いします。

82

83 **【事務局】**

84 ありがとうございます。続いて、神戸貴子さま、お願いいたします。

85

86 **【神戸委員】**

87 みなさま、こんにちは。私、鳥取県で介護保険外サービスの事業を10年前から立ち上げて、現在、全
88 国で14拠点事業を運営している事業者です。ベースは看護師とケアマネジャーの資格を持っています。
89 ヤングケアラーの支援もしているのですが、その関連の情報収集もしている中で、これは県外の話をも
90 のまま持って来ても難しいと感じました。これについて、みなさんとディスカッションできたらいいな
91 と思って、本日参りました。どうぞ、宜しくお願いいたします。

92

93 **【事務局】**

94 ありがとうございます。続いて、金城美香さま、お願いいたします。

95

96 **【金城委員】**

97 こんにちは、沖縄県糸満市福祉部長の金城と申します。私は、保健師として糸満市役所に入職してい
98 て、2年前より現職を務めております。県内11市の代表としての参加と聞いております。この会議で得
99 られた内容を地域で発表できればと考えております。宜しくお願いします。

100

101 **【事務局】**

102 ありがとうございます。続きまして、田村浩介さま、お願いいたします。

103

104 **【田村委員】**

105 みなさん、こんにちは。私はNPO法人みらいLABOの共同代表と、それから株式会社いきがいきクリ
106 ーションという介護、医療、障害福祉の会社を営んでいるものです。沖縄市、うるま市に事業所があ
107 ります。作業療法士です。東京出身で、沖縄来てから、もう沖縄の方が長くなりました。今日は、宜し
108 くお願いします。

109

110 **【事務局】**

111 ありがとうございます。続いて、栩野浩さま、お願いいたします。

112

113 **【栩野委員】**

114 栩野と申します。宜しくお願いいたします。沖縄ツーリストという会社で執行役員をやっております。
115 沖縄県ユネスコ協会の常任理事、それから沖縄経済同友会等々、旅行会社ですけど、あまり旅行の仕事
116 はやっておらず、どちらかというとSDGs系の仕事をしております。金岡先生にちょっと似ているので
117 すけど、経済界と学校や地域との連携を作ることに時間を使っております。実は介護分野は、門外漢で

118 はあるのですが、プラットフォームを作るということであれば微力ながら貢献したいなと思っていま
119 す。実は、私も本土出身者です。宜しくお願いいたします。

120

121 **【事務局】**

122 ありがとうございます。続いて、豊見山亜紀子さま、宜しくお願いいたします。

123

124 **【豊見山委員】**

125 こんにちは。出身は沖縄本島の北谷町ですけれども、多良間村という宮古島と石垣島の間の、水納島
126 と多良間島からなる小規模離島で、役場に入職して約10年になります。10年前、ちょうど介護保険の
127 総合事業が始まったバタバタの時に、公務員の仕事を始めて介護の仕事だけをやってきたので、お役に
128 立てるようなことができるのかという不安はあります。沖縄は那覇のような大きな市もあれば、多良
129 間村のような小規模な離島自治体もありますので、そういった視点を踏まえながら、皆さんからいろい
130 ろ勉強させてもらえるかなってということで、参加しております。どうぞ、宜しくお願いします。

131

132 **【事務局】**

133 ありがとうございます。続きまして、藤原薫さま、宜しくお願いいたします。

134

135 **【藤原委員】**

136 みなさん、こんにちは。広島県の地域包括ケア推進センターから参りました藤原と申します。私は、
137 広島県庁を退職して、今の職場で働いております。センターでは各地区からの委託で地域支援事業関係
138 の研修や市町村支援などをさせていただいております。皆さんと一緒に、プラットフォームを考えて行
139 けたらなと思っております。どうぞ、宜しくお願いいたします。

140

141 **【事務局】**

142 ありがとうございます。最後に、松本小牧さま、宜しくお願いいたします。

143

144 **【松本委員】**

145 みなさま、こんにちは。愛知県豊明市共生社会課長をしております松本と申します。名古屋市の南東
146 部に位置しております人口7万人弱の自治体の職員でございます。私自身は、地域づくりとか市民協働
147 といったことを非常に長くやってきまして、現在の課では、自治会、町内会、そしてNPO支援、多文化
148 共生、そして重層的支援と、幅広い地域課題を担当している所管課になります。私自身は、9年間地域
149 包括ケアの仕事をしておりまして、特に民間企業と連携した高齢者の暮らしにくさを解消するさまざま
150 な技術開発を得意としております。この会議でも、少しでもお役に立てればと思っております。どうぞ、
151 宜しくお願いいたします。

152

153 **【事務局】**

154 皆さま、どうも、ありがとうございました。

155

156

157 4. 委員長及び副委員長の選出（資料1）

158 【事務局】

159 続きまして、議事次第にしたがって、委員長と副委員長の選任を行いたいと思います。委員長と副委
160 員長は万国津梁会議設置要綱第5条第2項の規定によりまして、委員の互選により選任することとなっ
161 ております。まず、委員長について、どなたかご推薦等ございませんでしょうか。金城委員、お願いい
162 たします。

163

164 【金城委員】

165 はい。金岡省吾委員を委員長に推薦したいと思います。

166

167 【事務局】

168 ありがとうございます。ただいま、金城委員から委員長に金岡委員をご推薦いただきました。そのほ
169 かにご意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

170

<異議なしの声>

171 【事務局】

172 ありがとうございます。異議なしの声をいただきましたので、金岡委員に委員長をお願いできればと
173 思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。

174

<拍手>

175 続きまして、副委員長について、どなたか委員の中らご推薦はございませんでしょうか。金岡委員、
176 お願いいたします。

177

178 【金岡委員長】

179 先ほど、岡本委員のお話にもございましたが、地域のことは地域の方が、特に企業の方のご意見を重
180 視したいと思いますので、地元経済界の方をお願いしたいと思います。栩野委員を推薦させていただき
181 ればと思いますが、よろしいでしょうか。

182 【事務局】

183 ありがとうございます。ただいまの金岡委員長からのご推薦について、ご異議ありますでしょうか。
184 よろしいでしょうか。

185

<拍手>

186 【事務局】

187 どうもありがとうございます。拍手でご承認いただいたかと思います。それでは、委員長を金岡委員
188 に、副委員長を栩野委員をお願いしたいと思います。それでは、金岡委員は委員長席に移動をお願いい
189 たします。（委員長移動）それでは、金岡委員長の方から一言ご挨拶をいただけたらと思います。宜しく
190 お願いいたします。

191

192 【金岡委員長】

193 金岡です。宜しくお願いします。私はシンクタンクにて課題解決のレポートを書いていましたが、い
194 い戦略報告書を書いても、地域が動かないとの壁にぶつかりました。地域が動くためには、公共私、そ
195 れぞれステークホルダーの考え方を紐解き、その人たちが動く仕組みを、私も勉強したいと思い、今回

196 参加させていただきました。

197 私の大学での取組は、人口減少に伴い地域の生活サービスが崩壊する中で、地域企業の人たちが意外
198 にも課題解決へと動いてくれています。若い人たち、30代から50代位の人たちが、全国で9か所、毎
199 年100人程度が我々のリカレントスクールに参加し、課題解決へと動いてくれます。2008年に新しい公
200 共という概念が出現し、地域づくりの考え方は変化しました。最近では大手企業と地域の企業の新たな
201 関係づくりによる地域課題解決です。

202 私はどちらかと言うと、ビジネスの観点からのアプローチですので、皆さんからは地域の視点が出て
203 くれればと思いますので、是非、積極的にお話をいただければと思います。私は、単なるつなぎ役です。
204 皆さんのご意見をいただき、それを事務局がまとめるという形になると思いますので、是非とも、積極
205 的なご発言を宜しくお願いできればと思います。

206

207 **【事務局】**

208 金岡委員長、どうもありがとうございました。では、以降の進行につきましては、委員長をお願いし
209 たいと思います。委員長、どうぞよろしくお願ひいたします。

210

211 **5. 議事（資料2、3、4）**

212 **【金岡委員長】**

213 それでは、私の方で少し進行させていただきます。第1回目ですので、こういった論点なのか、すな
214 わち、皆さん方からこういったご意見を賜ればよいかといったところから入れればと思います。会議
215 の趣旨と概要について、お配りしていただいた資料2の説明を事務局からお願いしたいと思います。宜
216 しく願ひします。

217

218 **【事務局】**

219 沖縄県地域包括ケア推進課の又吉と申します。私のほうから資料2を使って、会議の概要等のご説明
220 を差し上げたいと思います。宜しくお願ひいたします。

221 資料2をお開きいただきまして、テーマが三つ記載されているかと思いますが、これは、今年度の万国
222 津梁会議のテーマとなっておりますが、このうち、この会議においては、超高齢社会に対応する公共私
223 の連携、これについての有識者のご意見をいただきたいということで開いております。

224 続いて3ページをご覧ください。赤字で表示したところがポイントとなっておりますので、そちらに
225 目を通していただきながら、お聞きいただきたいのですが、都道府県別に高齢者人口の伸び率を見た時
226 に、他の都道府県の伸び率が緩やかになる局面におきましても、沖縄県では高齢者率の継続的な上昇が
227 見込まれております。これは、後ほど資料でご説明いたしますが、この75歳以上人口の伸び率が突出
228 して高くなることも予想されています。したがって、今後は高齢人口の増加、これに伴って医療介
229 護の担い手不足というのでも一層強まって参りますので、サービスの広がりや持続性に課題があると考え
230 られます。そのため、県が広域的立場から市町村と多様な主体、これは民間企業も含まれますが、これ
231 を接続する枠組み、先ほど、プラットフォームというお話がございましたけれども、そちらを構築し、
232 高齢者の生活課題に対応する多様な主体による連携・協働サービスの創出などを県として支援していく
233 必要があると考えておまして、本日の万国津梁会議を設置しております。

234 4ページをご覧ください。今、ご説明を差し上げたのが、赤の四角で囲ったところになりますが、プ

235 ラットフォームを構築しましても、そこで接続された地域の方々と民間企業との間で、具体的にどうい
236 ったサービスを作っていくか、この点についても、実は別の調査を並行して行っておりまして、この中
237 では地域づくりのキーパーソンである生活支援コーディネーター、あるいは包括支援センターの職員な
238 どのご意見を聞きながら、また、民間企業もお声掛けをして、お集まりいただいて、意見を聞いて、ま
239 た、全国の代表事例も調べて、その上でワーキンググループを設置して議論を重ねながら、サービスモ
240 デルとして県内でも応用可能なものを整理していきたい。この両方の取組を並行して行っているところ
241 でございます。

242 5ページをお開きください。今、ご説明したところが四角囲いのところにあたりますが、これらの成
243 果を以って、来年度以降、多様な主体の連携による介護予防・日常生活支援サービス等の創出に取り組
244 んでいきたいと考えております。

245 6ページをお開きください。この会議は、年間3回を予定しております。本日の会議は、沖縄県の現
246 状と課題の共有及び本テーマにおける論点というものについて、皆さまから幅広くご意見をいただき
247 たいと思います。それを構造化してまとめまして、12月18日水曜日に、各論点に関する議論を深め、翌
248 年2月7日に提言書という形で案を皆さまにお示ししますので、それについてご意見をいただいた上で、
249 3月には知事に提言書を手交するという流れを考えております。

250 会議担当部署は、我々地域包括ケア推進課、それから事務局受託者として、三菱UFJリサーチ&コ
251 ンサルティング株式会社及び会議運営事務の一部を地元の株式会社海邦総研に委託をしているという
252 ところでございます。簡単ですが、概要は以上でございます。

253

254 **【金岡委員長】**

255 ありがとうございます。簡潔にご説明いただきました。事業は2種類動いており、もう一つの事業
256 にてヒアリング等のデータ収集を行っており、その結果はこの会議にもお示しいただけるとい
257 ちらの事業ではプラットフォームをどうしていくのか、2ページに示されましたが、そちらにつ
258 きて、本日は皆さま方から論点整理のヒントをいただいて、次回、各論点別に話をしていくとの位置
259 づけだったと思います。皆さまのご協力もあり前倒しで進んでおります。それではまずは、この趣旨、進
260 め方につきまして、もしご質問等あれば、事務局へとぶつけていただければと思いますが、いかがで
261 ございましょうか。どうぞ。

262

263 **【岡本委員】**

264 市町村の地域包括ケアシステムの構築では、公助・共助・自助という表現が、我々には耳慣れていて、
265 「公共私」というのは、実は今回会議で初めて知ってネットで検索しました。公共私って一体誰のこと
266 なのか、特に「私」のところがですね、これまでは住民を主に指していたと思いますが、どうも民間企
267 業が含まれているようで、十分に理解できていないのですが、ご説明いただければと思います。

268

269 **【金岡委員長】**

270 はい、お願いします。

271

272 **【事務局】**

273 まず、「公」につきましては、市町村などの公共機関、あるいは市町村から委託を受けて市町村に代わ

274 　　って事業を行う機関、そういったところを想定しています。また、「共」といったところは、NPO 法人
275 　　ですとか、非営利団体を中心に考えております。それから「私」については、まさにおっしゃっていた
276 　　いただいたように、住民とかボランティア団体もそうですけれども、一方で民間企業も含めて「私」という
277 　　形で検討していただくこととしています。以上です。

278

279 **【金岡委員】**

280 　　ありがとうございます。最近は、民間企業による地域課題解決が注目されています。この10年で地
281 　　域づくりの概念が大きく変わり、中小企業政策においても零細企業による地域課題解決が注視されてお
282 　　ります。ほか、どうぞ。岡本さん、よろしいでしょうか。

283

284 **【岡本委員】**

285 　　はい。

286

287 **【金岡委員長】**

288 　　まだ、時間はあります。今、定義の部分でのご指摘であったと思います。どうぞ、副委員長、宜しく
289 　　お願いします。

290

291 **【栩野副委員長】**

292 　　もう一方で走っているサービスモデルの整理ですけど、その整理は、この委員会のどのタイミングで
293 　　見ることができるのか、興味があるので説明をお願いします。

294

295 **【金岡委員長】**

296 　　はい、事務局宜しくお願いします。

297

298 **【事務局】**

299 　　もう一方の調査の進捗については、ワーキンググループの内容の構想ですとか、あるいは、参加する企
300 　　業がどういったところが出てくるかっていうことによって、企画内容が変わってくるので、明確にスケ
301 　　ジュールが固まっているわけではないのですが、企業と地域のニーズを把握している地域包括センター
302 　　の職員と生活支援コーディネーターを集めた会議を11月の下旬頃に予定しております。その間に、ワー
303 　　キンググループの先行調査として、また、そのワーキンググループに投げる様々な情報も、事前の情報
304 　　収集なども行ってございまして、そういったものも少し整理して、次回の12月の18日には、可能な限り
305 　　まとめて、皆さまと共有をして、大きな枠組みの議論をしていただけたらなと考えております。その後、
306 　　この会議は2月に予定されておりますが、その間に、またもう一度、全国の事例調査やワーキンググル
307 　　ープなどを予定しておりますので、それが、もし第3回の会議に間に合うようでしたら、その2回目の
308 　　ワーキンググループの結果の状況の紹介もできると思います。会議の参考になるように、出来るだけこ
309 　　ちらの調査も踏まえて、何とかやっていきたいと考えております。宜しくお願いします。

310

311 **【金岡委員長】**

312 　　はい、ありがとうございます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

313

314 **【栩野副委員長】**

315 はい。

316

317 **【金岡委員長】**

318 次回までには、出来る範囲でご提示いただけるとのことでしたので、頑張っていたきたいと思います。
319 す。二つほど意見いただきました。ほか、いかがでしょうか。どうぞ、宜しくお願いします。

320

321 **【田村委員】**

322 この会議を終えて、それからいろんな何かが作られて動いていく中で、どうなったらうまくいったこ
323 とになるのかをイメージしておきたいと思います。目標じゃないですけど、アウトカムっていうか、ど
324 うなったら「うまくいったよ」と言えるのかっていうのを知りたいです。

325

326 **【金岡委員長】**

327 はい、鋭いご指摘で回答が難しいですが、回答できる範囲でいかがでしょうか。

328

329 **【事務局】**

330 そうですね。私たちも試行錯誤で今取り組んでいるところではあるんですけども、明確に定量的な
331 形で何か数値目標を立てて、もちろん評価していくのは重要なことですし、そういった意味では、次期
332 計画に向けた各種調査というものが、厚労省からも色々設計されて実施されるっていうのが、ルーティ
333 ーンとして3年おきに行われます。その調査を各市町村の方で実施していただくことにはなっているん
334 ですけども、その実施状況なども確認しつつ、それがしっかり計画に反映されているのか、指標に反
335 映されているのか、県も一緒になって考えながら、全県的にその成果を見える化していくっていう取組
336 も、実は並行して今進めているところがございます。いろんなものを並行して進めているっていう説明
337 になって恐縮ですが、それから民間企業の参画を得てサービス作りを実際に進めていくっていう段階は
338 来年度本格化していくと思われまして、その時には栩野委員とか、実際に実践者としても色々、田村委
339 員も含めて関わっていただきたいと思っています。それらについては、定量的な形でこれをお示しでき
340 るようであれば検討していきますし、そうでなくても、実際にそういうプラットフォームっていう何ら
341 かの形が出来上がったとか、あるいは県は県内に広域で根差した企業との連携を進めて、市町村は地域
342 に根差した地域の中で商圈を持つ企業と連携を進めていくみたいな形で、うまく組み合わさって活動が
343 活発化していくっていうところも一つ成果としては、次年度以降確認しながら進めていきたいと考えて
344 おります。

345 現時点では、もう全部並行して、私たち地域包括ケア推進課が、実は今年度新設されてですね、この
346 取組をまさに評価していこうというところですので、皆さまからの意見を受け、学びながら並行して進
347 んでいきたいという説明になってしまいます。以上です。

348

349 **【金岡委員長】**

350 はい、よろしいですか。是非、積極的な能動的な意見をいただければというところだと思います。多
351 分、事務局も今の答えで大丈夫だと思います。では、いかがでしょうか。三つほどいただきましたが、

352 他にございますか。はい、どうぞ。

353

354 **【田村委員】**

355 行政の会議でも、数字を求められますが、なかなか出せない現状もある中で、「すごく幸せになったと
356 か」、「お互い話が盛り上がったな」とか、「お互い支え合っているな」といった数字では表現できないけ
357 ど、雰囲気のようなものでもよいのではないかと考えています。元々の沖縄のゆいまーるじゃないです
358 けど、数字で出すことにこだわりすぎると、つまらないと言いますか、人間らしくないようにも思いま
359 したのでお伝えしました。

360

361 **【金岡委員長】**

362 はい。懐深い優しいお言葉でありありがとうございました。数値と言われるとビックリしますが、現在の
363 地域づくりでは、地域の課題解決する地域力を強化するとともに、もう一つ地域の愛着を向上させ、こ
364 れが幸せにつながることを求められています。愛着を高めることのデータ化は難しいでしょうが、是非
365 皆さんの目を見て、この結果が愛着なんだと、あるいは、エンゲージメント、繋がりがなんだといったよ
366 うな点を、皆さま方からご指摘いただき、それを提言書に盛り込めればと思います。ありがとうございました。
367

368

369 **【栩野副委員長】**

370 主観指標って最近出ていますね。ウェルビーイング指標は、市町村単位まで出ていますね。だから、
371 そういう指標はあるということ、沖縄県は県民満足度調査を今年やるので、数値が入ってきてもおか
372 しくはないなと思います。

373

374 **【金岡委員長】**

375 はい、両面併記へのご指摘ありがとうございます。事務局にお任せしますが、ウェルビーイング数値
376 化は難しい点もあると思います。地域への愛着が向上すると人口減少を歯止めする可能性があるとの分
377 析結果があります。客観的、定性的、どちらでも構いませんので、沖縄のウェルビーイングが上がる
378 ということになればと思いますので、無理の範囲で、盛り込んでもらえればと思います。

379 そろそろ、次の单元へ進む時間になりましたので、次の資料のご説明を伺ったあとに、皆さんから再
380 びお話をさせていただければと思います。では、次に資料3について説明をお願いします。

381

382 **【事務局】**

383 はい、それでは資料3-1 沖縄県の高齢化の現状をご説明差し上げます。めくっていただいて、2ペ
384 ージ目ですが、左の棒グラフが全国、右の棒グラフが沖縄県の将来推計人口となります。見ていただい
385 て分かる通り、全体的には人口が減少していくというトレンドの中で、65歳以上人口が2020年と2050
386 年の比較で、右の沖縄県だと1.4倍まで大きくなっていくということでございます。

387 次に3ページです。これはより可視化して分かりやすいと思いますが、左が75歳以上人口の伸び率、
388 右が85歳以上人口の伸び率で、赤が沖縄県です。薄い黄色というかオレンジが全国ですが、一目して分
389 かる通り、全国はフラットな、ちょっと落ち着きを見せる場面がこの後出てくるんですけども、沖縄
390 県はもう一貫して2050年まで伸び続けるというような状況がございます。

391 次、4 ページをお開き下さい。これは圏域別に人口の状況、高齢化率と併せての表示しておりますが、
392 沖縄県人口の 85%は中南部に居住している。北部圏域や宮古圏域の高齢化率が 27%から 28%と高いと
393 いうような状況を頭に置いていただければと思います。

394 めくって 5 ページ目です。沖縄本島や宮古島、それから石垣島を除く周辺離島の高齢化の状況はより
395 深刻で、表の中に色が塗られているところがありますが、高齢化率が非常に高いという状況です。

396 6 ページをご覧ください。高齢者数も伸びていきますので、必然的に要介護の認定者数も伸びていく
397 という推計を第 9 期計画では見込んでおります。

398 7 ページをご覧ください。高齢者世帯数ですが、一番下の棒グラフの赤い部分が高齢者の単独世帯で
399 すね、その上の少し薄い赤の部分が高齢夫婦世帯、それから、その上が高齢者を含む世帯、いずれも 2040
400 年にかけて増えていくトレンドがございます。

401 次に 8 ページをご覧ください。こちらは高齢者単独世帯の男性の状況ですけれども、沖縄県では、特
402 に 60 歳以降で男性単独世帯の割合が高いです。沖縄県、右の赤い部分です。それからめくっていただ
403 いて、単独世帯の女性も、沖縄県では 50 から 74 歳位のゾーンで、全国よりも単独世帯の割合が高いと
404 いう状況です。

405 次に 10 ページをご覧ください。こちらは年金の加入受給の状況ですけれども、全国が年金の未受給率
406 が 2.9%なのに対し、沖縄県は 6.21%と約 2.14 倍高くなっております。また、年金受給者の厚生年金保
407 険、それから国民年金保険の額につきましても、厚生年金が全国 44 位、国民年金が全国 47 位というこ
408 とで、年金受給している方がもらっている金額も低いという状況です。

409 続いて 11 ページをご覧ください。年金受給率が低いということは、必然として生活保護の状況も全国
410 に比べて、那覇市ですと約 2.67 倍、那覇市を除く沖縄県で 1.4 倍、右の表の中を見ていただくと郡部よ
411 りも市部の方が生活保護率が高いという状況にあります。左下の表ですが、総世帯数のうち、高齢者世
412 帯が 57.1%、生活保護を受給している割合です。単独世帯が多いということになります。

413 以上が簡単ですが、沖縄県の現状となります。続いて、システムやサービス面につきましては、また
414 説明が変わります。宜しく申し上げます。

415

416 【事務局】

417 三菱UFJリサーチ&コンサルティングの岩名と申します。それでは地域包括ケアについて少しご説
418 明します。13 ページをご覧ください。背景について今回の共通認識として持っておきたいと思いま
419 すので、簡単に触れたいと思います。高齢者の体の状態が悪くなりますと、今いる場所での生活がやはり出
420 来ずに、住む場所を変えるということが大変多くなって参ります。それは施設においても同じでござい
421 まして、最後は病院で亡くなるという方がこの国では大変多いということが言われてきました。今後、
422 単身世帯も増えて参りますし、軽度の段階から重度の状態でなくても、在宅生活が出来なくなるという
423 ことが危惧されているということで、これを支えていこうという地域包括ケアシステムが国の政策とし
424 て進められてまいりました。

425 しかしながら、国の介護保険サービスは、ともすれば、画一性が強く、地域の実情に合ったものは難
426 しいということで、約 10 年前から、この図の一番下にある地域支援事業、生活支援体制整備事業、介護
427 予防・日常生活支援総合事業のような、自治体・現場レベルで、工夫ができる制度の枠組みが創設され
428 てきたという経緯があります。

429 14 ページをご覧ください。高齢者の生活を支える時によく言われるのが、この植木鉢の絵でございま

430 す。専門職だけで成り立っているのではなくて、土の部分、地域の中の多様な主体の関わりの中で生活
431 は成り立っているの、実は介護保険の専門職だけで生活が継続出来るということにはならないという
432 ことを示しております。

433 15 ページをご覧ください。国もこの 8 月に総合事業のルールに改正を行いました。引き続き、大きな
434 方針は変わっておりませんが、上から二つ目の丸のところ、住民の主体的な活動や地域の多様な主体は、
435 これは民間企業も入っておりますが、民間企業の参入を促進して、高齢者自身が適切に選択できる、住
436 民の選択肢を広げることが、国の政策として改めて強調されたという経緯がございます。

437 そして、16 ページをご覧ください。地域の多様な主体の関わりを増やしていくために、生活支援コー
438 ディネーターという方が、本県におきましても 7~80 人の方々が、既に活動されております。いろいろ
439 課題はありますが、これらの方々が地域の多様な主体の方々に声をかけ、そして情報提供しながらコー
440 ディネーションしていくという政策が取られて参りました。現在、この一番下に小さく書いてありますが
441 が、各地域に予算が交付されておまして、今回、さらに住民参画官民連携推進事業というものが追加
442 され、国としてもこうしたプラットフォーム事業であったり、これ右の緑色の図の中にありますけれど
443 も、プロジェクト化したりモデル事業やったり、こういくことを積極的に応援していきたいということ
444 で予算も追加されました。

445 具体的にどんなことで地域の困りごとがあるのか、17 ページをご覧ください。これ少し古いデータに
446 なりますが、いわゆる介護保険の要介護状態の一步手前、要支援あるいは虚弱といわれる高齢者の方、
447 こういった方々がどういうことをサービス、訪問介護サービスで使っているのかということ調べたも
448 のになります。こちらをご覧くださいと、上位の方を見ていただくと、掃除、買い物、調理が大体中心
449 を占めていることがわかります。この部分は、専門職でなくても多様な主体で応援できるのではないか
450 と言われております。

451 18 ページをご覧ください。こちらは、現在のホームヘルパー（訪問介護）が提供できる内容が実は法
452 令上、規定されていることを示したものです。ここに書かれている内容以外のものを、ホームヘルパー
453 が介護保険の中で実施することは出来ません。しかしながら、実際の生活ではペットのお世話だとか、
454 生活の多様な場面での支援が必要になります。そういったものを支えるには、実は民間の方が柔軟性が
455 高いのではないかとということも言われておまして、介護保険だけにこだわらない幅広いプレイヤーの
456 参画が重要とされております。これが、大きな現在の流れとなっています。そこで出てくるのは、寝た
457 きりの方のケアだったり、医療的なサービスを提供するというような、いわゆる体に直接触れるような
458 ものではなく、直接ご本人に触れることはない行為、ご飯を用意したり、買い物したりということは出
459 来る訳でございまして、こういった生活支援の部分をどう拡充していくのが課題となっています。

460 さらに、資料 3-3 では、この県の介護保険の状況について、簡単に触れたいと思います。20 ページ
461 をご覧ください。介護保険料につきましては、それぞれの地域のサービスの利用の量に基づいて（保険
462 料の）負担が決まっています。

463 したがって、たくさんのサービス利用があれば、全体の金額が高くなりますが、沖縄県は県平均で 6,955
464 円で、全国 6,225 円に比べて、少し高いということが言われております。県内ですと、7,000 円を超える
465 市町村も出てきております。しかしながら、高齢化のピークは、全国と比べると、これからやってくる
466 県でございまして、実は金額的にはまだまだ上がっていく可能性があるということが言えます。

467 21 ページをご覧ください。そのことは数字でも出ておまして、第 1 号被保険者一人当たり、すなわ
468 ち、これは 65 歳以上の高齢者人口とほぼ同義でございまして、65 歳以上一人当たりの保険の給

469 付費は、全国でトップというのが沖縄県の位置づけです。

470 22 ページをご覧ください。生活支援コーディネーターとか、軽度の方の生活支援を推進するための総
471 合事業の費用がどれくらい使われているかというのが 22 ページでございます。保険給付も、一人当たり
472 に直すと結構高いのですが、この地域支援事業の部分も沖縄県ではかなり支出がされております。地域
473 支援事業は全国の 1.3 倍、さらにその内訳になりますが、一般介護予防事業といいますのは、サービス
474 というよりは、住民活動に係る支援・援助・補助のようなものになりますが、これも 1.6 倍とかなりお
475 金がかかっているという状況でございます。

476 一方、23 ページをご覧ください。生活を支える時の要になるのはやはり今、主力は訪問介護ですが、
477 県の提供レベルは全国を下回っています。県内の多くの市町村で全国の平均 2,363 円を大きく下回って
478 おります。県内では、宮古島市が非常に高い水準にあります、それを除くと、やはり全体的には非常
479 に低い水準です。

480 さらに、24 ページをご覧ください。今でも、かなり厳しい状況の訪問介護でございますけれども、その
481 担い手は、60 代以上の方が 3 割を占めておりまして、非常に高い割合で中高年の方に支えられているサ
482 ービスということが 24 ページで分かると思います。右側の人口ピラミッド、別の調査のソースになりま
483 すが、50 代・60 代も非常勤の方で支えられているという実態もありまして、沖縄では高齢者人口のピー
484 クに達するのはもっと先ですが、非常に厳しい状況が想定されております。

485 25 ページをご覧ください。これは、先ほど人口推計の方でも出ておりますけれども、75 歳以上はこれ
486 からどんどん増えていって、ピークアウトするのは 2060 年以降ということが分かります。一方で、若年
487 の生産年齢人口自体は増加が期待できないので専門職だけで支えていくというのは難しいといえます。

488 26 ページをご覧ください。これは県の高齢者保健福祉計画に示されている人材の需給ギャップ
489 ですが、大きな差が生じるだろうということが指摘されております。総じて、沖縄県は人材の面でも財
490 政の面でもかなりの制約のある中で、取組を進めることとなります。

491 28 ページをご覧ください。ここは、少し細かいですが、重要なところなのでお話させていただきます。要
492 支援、軽度の方の訪問介護やデイサービスにつきましては、従来の全国统一モデルから 28 ページの右四
493 つの ABCD といわれるような、多様な主体によるサービスに転換を図るとということが政策として進め
494 られて参りました。従前相当とは、総合事業が始まる 10 年前よりも前に保険給付として全国统一のサー
495 ビスとして行っていたものになります。その従前相当を ABCD などの多様なサービスに転換してくださ
496 い、それが自治体に課せられたミッションでございます。

497 29 ページをご覧ください。全国的にそこまでの転換が進んでいる訳ではございませんが、上半
498 分の訪問型のサービスにつきましては、全国で 4 割弱、3 分の 1 ぐらいが多様なサービスに転換してい
499 く中、沖縄県ではまだ 85% ぐらいは従来の保険給付型の訪問サービスが行われているということで、専
500 門職に頼らざるを得ない状況があります。デイサービスを含む通所型のサービスは、沖縄県でも従前相
501 当が減っておりまして、多様なサービスが進んでいますが、四角で囲んであるところ、右側の紫の部分、
502 サービス C と書かれている部分の割合が高いことが分かります。統計の取り方で、いろんなものがこの
503 中に含まれている可能性があります。前提として C は、専門職が関わるサービス形態で、多様な主体
504 によるサービスではありますが、専門職にお願いしている点では大きな変化がありません。

505 30 ページをご覧ください。もう一つ、サービス形態のものだけでなく、住民の集まりの場、趣味の会、
506 スポーツのサークル、そういったものも予防に効果があるということで、国の政策としても推進をして
507 参りましたが、実は全国に比べると、住民だけで運営している通いの場が沖縄県は若干少ないというこ

508 とが特徴として出ています。この図ですと、上のグラフになりますが、沖縄県は社会福祉協議会や行政
509 が主導的に行っている通いの場が多いということです。やはり、専門職や行政職員の方の手が掛かって
510 いるということで、これは前向きに捉えられる部分もあると思いますが、人手がないという中で、この
511 形でいいのかというのは議論のある所だと思っています。良い悪いというよりは、どういう状況に沖縄
512 県があるのかということのご説明をさせていただきました。以上です。

513

514 **【金岡委員長】**

515 ありがとうございます。次の論点説明の後に皆さま方から意見をいただきたいと考えており、その
516 前に共通情報の共有をいただけたと思います。多様なサービス提供の可能性が求められる中で、民間企
517 業が取り組む可能性はどの問いです。民間企業が地域課題に取り組むと、売上ばかりでなく企業価値が
518 向上、雇用への好影響などが生じます。CSV、パーパス経営など、経営戦略が変化しており、そうし
519 た流れの一環だと思います。企業に何を考えていただくかとの問いだと思います。質問があれば、いた
520 だければと思いますが、いかがでしょうか。

521

522 **【岡本委員】**

523 沖縄県介護保険広域連合で中小市町村の分析をしていたので、少し情報提供を追加したいと思います。
524 3 ページの 75 歳以上人口 85 歳以上の人口の伸び率は非常に重要だと思います。沖縄県全体としては、
525 全国に比べて高齢化がまだまだ進むわけですが、実は離島や沖縄本島の北部三村に関しては既に高齢化
526 のピークに達していて、本土並みにこれからこの伸びはあまりない地域もあります。この後の議論で民
527 間企業の展開を考えると、都市部と、離島ややんばる三村の取組は違うものが必要になってくる
528 と思いました。

529 それからスライドの 4 です。沖縄県は 41 市町村ありますが、規模の大きい宮古・石垣島を除外すると
530 離島が 13 自治体、それに北部三村入れて 16 自治体が今言った規模の小さい高齢化の進んでいる自治体
531 ということをお話ししておきたいと思います。

532 あと一点、スライド 17 の要支援者における介護予防サービスの利用状況、これはかなり古いデータ
533 で、総合事業がスタートする前のデータです。全国的に変わっていると思いますが、沖縄県では訪問介
534 護サービスの利用率が非常に低く、要支援の方は通所サービスの利用もものすごく多い。訪問介護サ
535 ービスが元々少ない。ですので、沖縄では掃除を目的とした訪問介護サービスの利用は割合が低く、北中
536 城村で調査したときには、一番多かったのは調理でした。

537 それから通院とか外出支援についても、今後どのようなサービスやあるいは活動が必要かについて、
538 沖縄県の要支援者の必要としているサービスを確認する必要があるだろうというふうに思いました。私
539 からは以上です。

540

541 **【金岡委員長】**

542 重要な指摘ありがとうございます。どうぞ。

543

544 **【栩野副委員長】**

545 事実認識の意味で岡本委員に質問があります。私達が話題にしているのは高齢の人たちですけど、沖
546 縄県は所得が低く、特にその高齢者の所得は、数字は見てないのですが、おそらくかなり低い人が多い

547 でしょう。あと独居高齢者の話もありましたが、男性の独居の方の所得も低いのではないかと。どういう
548 サービスが必要かをこれから考えるにあたり、対象者の所得の問題は、このデータには出てなかったの
549 で、どういうふうに捉えたらいいかっていうのも、もし調査の上でご存知であれば、聞いておきたいで
550 す。

551

552 **【岡本委員】**

553 やはり、小さな離島の沖縄県介護保険広域連合に入っているところでは、離島の方が所得が低くて生
554 活保護の受給率が高いということもあります。それから北部の三村などで地域包括ケアシステムを検討
555 したときに、一人暮らしの男性が一番重要なテーマになりました。結婚しないまま後期高齢者になって
556 虚弱化しているケースが目立つ。それは各市町村単位で分析しているところもあるし、してないところ
557 もあります。広域連合でも全体的なデータを持っておりませんでした。

558

559 **【栩野副委員長】**

560 一般的には、本土の人が思うよりも、かなり所得は厳しいという認識ですか。

561

562 **【岡本委員】**

563 数字としては低いですが、それなりにやっているっていうのもあって、ご本人たちに所得が低いとい
564 う認識は低いかもしれません。そんなにお金は要らないってところですよ。

565

566 **【栩野副委員長】**

567 ゆいまーということで、沖縄の強みだと思います。ありがとうございます。

568

569 **【金岡委員長】**

570 はい、ありがとうございます。貴重な議論だと思います。

571

572 **【神戸委員】**

573 先ほど所得の話も出ましたが、高齢者、特に男性の孤独・孤立は大きな問題になっています。特に、
574 60代、70代の男性の孤独死は女性に比べると非常に比率が高くて、8割位が男性だという話もありま
575 す。実際、沖縄県は割と離婚率も高いとか、先ほど男性の問題もあるって話でいきますと、孤独・孤立
576 の文脈でいくと、どれくらいの方がいわゆるデータとしては孤独死をしてしまうのかとか、そういうデ
577 ータはお持ちですか。介護サービスを使うような、例えば要支援・要介護になると、ケアマネジャーが
578 ヘルパーやデイサービスを手配します。なので、孤独死になることはないのですが、その手前の人たち
579 はリスクが高い。とあるデータでは沖縄はいわゆる孤独死、平均年齢58・59って書いてありましたが、
580 それ正しいのかどうなのかもよく分かりません。

581

582 **【岡本委員】**

583 データを持ってなくて経験ですけど、男性で一人暮らしの方は、やはり最後にいろんな問題を抱
584 えている人が結構多くて、地域ケア会議の事例でも多いです。ただ、各市町村の男女別の要介護認定率
585 を見ると、男性は女性の半分ぐらいです。だから、孤独でも要介護にはなりにくい。要介護・要支援に

586 なっていく原因がそこではなくて、沖縄では骨関節疾患で膝・腰が痛くて要介護申請をするっていうケ
587 ースが多く、女性の方が認定率が高いという特徴があります。孤独死のデータって、又吉さん、ありま
588 す？

589

590 **【事務局】**

591 こちらで把握しているものは、今持ち合わせておりません。

592

593 **【金岡委員】**

594 はい。データには限界がありますし、出来る範囲で、あまり無理せずに、このような形でご意見をい
595 ただければと思います。ただ、本当に貴重なご意見だと思います。はい、お願いします。

596

597 **【松本委員】**

598 岡本委員にさらにお尋ねしたいのですが、比較的軽度の要介護認定者のサービス利用状況は、どのよ
599 うなニーズがあるのかを知るとい点でも、非常に地域の特徴が出るものだと思っています。先ほど、
600 訪問ではなくて通所の方が好まれるという話がありましたけれども、一方で全国的には一人暮らし高齢
601 者が多い地域はヘルパー利用が高い傾向も見られます。それが伸びていないというのは、ニーズがない
602 というのではなく、提供体制の方が間に合っていないくて頼めないということなのか、本当にニーズが
603 ないのかっていうのは、それは現場の感覚としてどうですか。

604

605 **【岡本委員】**

606 広域連合にいた昨年度の話ですけど、構成市町村を回って、このことについて聴き取りをしたことが
607 あります。その時に本島の中南部は、サービスの提供体制はあるけれど、申請は少ないということでした。
608 離島と北部に関しては、時々あるのだけど、そこではサービス提供体制がなくて困っている。だから、
609 元々訪問サービスを使いたいっていう件数はかなり少ない。その時に提供できる地域もあるし、提供
610 できない地域もあるって感じでしたね。

611 さっきの要支援に対する訪問サービスの内容を見ながら思いましたが、例えば、掃除に関して、一人
612 暮らしの高齢者の場合、家の中が汚れていても、あんまり気にしない、ケアマネも気にしないみたいな
613 感じで、依頼が少ないのかもしれない。一方、調理は、不可欠なのでヘルパーか配食サービスを利用
614 するかということで、沖縄県内、今は配食サービスを継続しているところが多いです。そこが費用的に
615 も大きなものになっています。

616

617 **【金岡委員長】**

618 はい。ありがとうございます。

619

620 **【松本委員】**

621 ヘルパー利用で、買い物とか、その家族が心配のために見守りの機能として入れるというのものもあるん
622 ですけど、そういうニーズはあまり目立たないですか。

623

624 **【岡本委員】**

625 まず、見守りに関しては、沖縄県はデイサービスを入れることによって、見守り、孤立を防ぐって
626 うのをよく聞きます。買い物に関して一人暮らしの高齢者の近隣に家族が、同じ自治体の中で別居家族
627 が居るとかですね、友人に買物を頼んでいるとかっていうケースがあって、買い物でヘルパーを利用
628 したいという人もいますが、そんなに多くはないと各市町村が回答しています。一応、小さな商店は県
629 内でもどんどんなくなってはいますね、大型スーパーまでは歩いて行けないといった状況のところはあ
630 るのですが、そこは介護保険サービスを使わないでも、別居家族や友人に頼るといのがあるので、そ
631 れでヘルパーを利用したいという話は、そんなには多くはないです。私の経験では、そんな感じです。

632

633 **【田村委員】**

634 ヘルパーの件ですけど、事務局がもし分かれば聞きたいのですが、沖縄県は住宅型有料老人ホームと
635 か、サービス付き高齢者住宅×デイサービスのモデルがほとんどだと思います。県外は、それにヘルパ
636 ーが対応するっていう形での差ではないかと思います。

637

638 **【事務局】**

639 訪問介護は全国平均の 0.7 倍ぐらいの利用率になっていますが、通所介護は 2.9 倍あります。全国平
640 均の 2.9 倍ですから、ちょっと異常値に近い。全国でもトップ水準ということですが、今、田村委員が
641 ご指摘の通り、住宅型有料老人ホームという、いわゆる生活支援サービスしか入っていないところに入
642 居いただいている、外部のデイサービスに日中入っていただくというのを繰り返したパターンが、沖縄
643 県の最大の特徴です。

644 私も以前調べたことがあります、残念ながら、デイサービスの利用者が、一般のお家にお住まいの
645 方なのか住宅型有料老人ホームに入っているのかですね、データだけでは判別できません。一応、国の
646 報酬に同一建物減算という減算項目があって、該当する方を調べると、住宅型有料老人ホームの居住者
647 を推定できますが、それで見ると、やはり沖縄県はこの 2.9 倍の内のかなりの部分、ちょっと正確
648 な数字は申し上げられないんですが、今言われたようなモデルで使われているということだろうと思
649 います。

650 このことで訪問介護が弱いのかどうなのか。先ほど岡本委員がおっしゃったように、掃除目的の利用
651 があまりない。これがいわゆる県民性的な生活スタイルの問題としてなのか、供給が他に流れている、
652 つまり、通所介護の方にはかなりの職員数が取られていますので、そのことによるのかっていうのは、断
653 定的なことは難しいと思っています。ただ、沖縄県の最大の特徴でありまして、在宅が一番多い県とい
654 うふうに統計上はいえますが、実態から言うと住宅型有料老人ホームが特別養護老人ホームをはるかに
655 超える数、整備されている全国でも数少ない県だと思います。

656 それと、先ほどから岡本委員がお話いただいている広域連合に関しては、国のデータだと離島も本島
657 の広域連合の市町村も全部合計されてデータが出てきてしまうので、公表されているデータでは市町村
658 の実態がつかめないということで、現在は広域連合が、構成市町村別に全部手元で集計をし直して実態
659 把握をされています。この辺りについては構成市町村さんもお自身でデータを見たりするのが非常に難
660 しいという、この辺も沖縄県の難しさとしてそういう背景があるということをお伝えしておきたいと思
661 います。

662

663 **【金岡委員長】**

664 はい。ありがとうございます。沖縄の特性について、先ほど岡本委員から市町村データを皮切りに、
665 いろいろな特性をお示し頂きました。皆さんよりさらに伺いたいのですが、この後、論点が表示されます
666 ので、その説明を聞いたうえで、さらに皆さま方からご意見をいただきたいと思います。資料4につい
667 て、事務局から少し説明をお願い出来ればと思います。宜しくお願いします。

668

669 **【事務局】**

670 それでは、資料4をご覧ください。論点が6つありますが、ちょっと次のページを先におめくりいた
671 だければと思います。言葉の整理だけ確認させていただきます。検討の対象についてですが、「サービス」
672 という言葉と「活動」という言葉を厚生労働省も使うようになっております。サービスと言っているの
673 は、提供者と利用者の関係を伴うもので、お金を払って通常に購入するサービスは、ほとんどがこれに
674 あたります。別に契約書を取り交わすものでなくても、契約関係が成り立つようなものになりますけれ
675 ども、お店で食事をするのもサービス、契約に基づき対価を払って行うものということです。

676 一方で、活動と言っているのは、見た目はサービスと活動の間にグレーゾーンが当然ありますが、利
677 用者・提供者の関係性を超えた取組として、例えば趣味のサークルであったり、スポーツのグループで
678 あったり、あるいは町内会の活動として皆さんが集まって茶話会、沖縄にはゆんたくという文化もある
679 わけですが、そういったものも活動と整理がされています。

680 この検討会でどちらか一方を強化していくというようなそういう前提でお話をしているわけではござ
681 いませんので、両方幅広くお考えをいただくように、お願いいたします。その一枚前に戻っていただい
682 て、論点は6つあります。事務局で論点に番号を振っておいた方がよかったと反省しているのですが、
683 上からですね、二つずつ塊になっています。最初の二つは、どのようなサービスや活動を、どのような
684 対象者に提供すべきかという対象者論です。そして、三つ目と四つ目については、どのようにアプロ
685 チしていくかという戦術論、そして最後の二つについては、役割論として、特に行政や生活支援コー
686 ディネーターにどういったサポートをしていただくことで、民間企業あるいは多様な主体の方々に参画いた
687 だけなのか、ということ論点として設定しております。

688 論点1の整備すべきサービス活動について、先ほど来、皆さんのお話も出ておりますように、所得の
689 違いや、当然これは沖縄県以外でもみられる問題ですが、あるいは多様な生活ニーズ、生活スタイルと
690 いうことから、サービス活動には多様性が想定されると考えます。それはどのような類型、どのような
691 タイプのものがあり得るのかということ。これについても、見落としがないように整理しておきたいと思
692 いますので、こういう視点が大事だということがあればご指摘をいただきたいと思います。

693 論点2ですが、高齢者本位、高齢者を中心に据えてサービス開発をしていく重要性について、皆さま
694 のご意見をいただきたいと思っております。ケアの領域では本人本位、パーソンセンタードという言葉
695 が定着してきていますが、高齢者自身を中心に据えた考え方、あるいは高齢者自身が担い手になる就労
696 的活動といった活動をどのように支援していくべきかという論点もあろうかと思っております。また認知症の
697 方のご意見を踏まえて、その認知症の方にとって必要なサービスや製品をどのように開発していくか、
698 そのプロセス・手法についてもぜひご意見がございましたら、いただければと思っております。

699 論点の3と4、これはどちらかということ具体的なアプローチの仕方ですけれども、地域支援事業は10
700 年前に見直されて以降、全国で住民主体の通いの場は相当増えたと言われております。正確な数字は把
701 握しきれないと思いますが、少なくとも厚労省の都道府県市町村への調査で10万ヶ所を超えていると
702 言われています。

703 体操教室を中心に非常に広がってきましたが、価値観の多様化の中で、社会参加や予防の方法も人に
704 よって違ってきていることを現場でも実感されていると思います。また、住民主体だけで進めるもの
705 だけでなく、民間企業のサービスを使っているような形の社会参加を望む方も、今後出てくるだろうという
706 ことで、ここについても支援のあり方について多様な角度からご意見をいただければと思います。

707 そして民間企業での、サービスの提供については、今基準や制約が厳しくあるわけではございません
708 が、民間の場合は広域でやっていくという、一定の規模を持つということも重要だと考えておりまして、
709 小さな個店レベルから、県内を代表するような大企業まで、かなり実はレイヤーがあると思っています。
710 したがって、この論点3と4はちょっと両極端なところがありまして、住民地域レベルから県域全体で
711 のサービス開発まで、多様なご意見をいただきたいと思っております。2枚おめくりください。子ども
712 領域ではすでに「沖縄未来ランチサポート事業」という事業が動いております。県全域で、企業の皆様
713 にもご参画をいただいて、お子さんが集まる居場所等に対する食品の提供などを進めています。こうい
714 ったイメージの広域連携をどう考えていくかも、一つの論点かと思っております。

715 そして最後二つは役割論です。こちら民間は自由に動けばいいわけですが、しかしプラットフォーム
716 もそうですが、ニーズが不明確とか、地域状況に関する情報を行政が保有しているということもあろ
717 うかと思えます。どのように民間企業と連携し、行政はどのような役割を果たすと民間企業あるいは住
718 民のグループにとって動きやすいのかについて課題も含め、自由にご発言をいただきたいと思えます。

719 また中学校区ぐらいの圏域単位に配置されている生活支援コーディネーターの方々について、人数も
720 限られておりますし、やるべきことはたくさんあるという中で、生活支援コーディネーターの皆さんの
721 力を最大化していくためにどのような支援が必要なのか、どのような役割規定が必要なのか、どのよ
722 うな場が必要なのかについても自由にご発言をいただきたいと思っております。以上でございます。

723

724 **【金岡委員長】**

725 はい。ありがとうございます。論点6つで、大きくグループで分けると3つです。与えられている時
726 間が1時間です。上から3つのグループを20分ずつ議論するか、あるいは個別に議論して、過不足を事
727 務局から調整のご指摘いただくか、どちらがよろしいですか。

728

729 **【事務局】**

730 多分、この3つも重なり合っている部分がございますので、あまり厳密に分けてしまうと、皆さんお
731 話しにくいかと思います。

732

733 **【金岡委員長】**

734 それでは、一旦自由にご意見をいただいて、時間を見ながら不足あれば、事務局より指摘いただき補
735 足する方式にしましょう。今回の3つどれも面白そうです。公共私のサービスの活動、あるいはそれぞ
736 れどのような形で動かしていくのか、場の問題、役割の問題、大きく3つありますけど、どなたからで
737 も構いませんが、副委員長からお話しいただきましょうか。宜しく願います。

738

739 **【栩野副委員長】**

740 公共私の「私」の民間企業の最近の動きを共有したいと思います。沖縄もご多分に漏れず、スタート
741 アップ支援が非常に盛んです。スタートアップは当然若い人たちが集まってきましたが、社会課題解決志

742 向が非常に強いですから敏感に反応してくれると思います。さらにそれをサポートするインパクト投資
743 が沖縄でも最近非常に話題になっており、沖縄でもインパクト投資ファンドが出来ました。インパクト
744 投資を含め、社会課題解決系のスタートアップを支援する仕組みを一生懸命やっている人たちがいます。
745 社会課題解決系のスタートアップをどう取り込むのかも、一つの大きな話じゃないかなと思います。

746

747 **【金岡委員長】**

748 情報ありがとうございます。いかがでしょうか。

749

750 **【神戸委員】**

751 私は保険外サービスをやっていますが、介護保険のヘルパー事業も同時にやっています。スタッフの
752 年齢構成は多様ですが、上は 81 歳で下は 20 代です。その 80、81 歳のスタッフは元気なときは、身体
753 介護もできました。でも、年齢を重ねていくと、体力も落ちてきて難しくなってくるわけですが、本人
754 たちは辞めたくないと言います。辞めてもらうつもりもなかったのですが、その辞めたくない理由は所
755 得の問題ではなくて、自分自身も孤独だから。出勤することで自分の安否確認もこの会社でやってもら
756 えて嬉しいと言って、出勤日ではないのに遊びに来るっていうこともよくありました。

757 ただ本当に体力が落ちてきたときには、配置転換で保険外サービスの訪問をお願いしています。年齢
758 を重ねると、介護保険のサービスで介護計画書通りに刻みながらの訪問が難しくなってくる。ただ、若
759 い人よりも、ご高齢のスタッフのほうが、同世代で支え合うという意味では、うまくいく部分もあり、
760 保険外サービスに彼女たちや男性の高齢者に入っていただくのは良いのではないかと考えています。

761 また、「注文を間違える食堂」といった取組もあるように、軽度の認知症であれば、十分に社会で活動
762 ができるので、現役並みの時給は難しくても、工夫をしながら働いていただければいいのではないかと思いま
763 す。

764

765 **【金岡委員長】**

766 はい。ありがとうございます。現場の声だと思います。今こそ、高齢者の方々も、多様な考え、働き
767 方があるというのは大切ですね。皆さま方に一言ずつはご発言いただきたいと思います。お願いします。

768

769 **【金城委員】**

770 市町村の立場からですが、民間企業との繋がりをどんな形で進めたらいいのか、きっかけや、場の確
771 保が大きな悩みです。市としても高齢者の就労活動や民間との協働を一緒に考えたいと思っていますが、
772 どう接点を持っていったらいいのかは悩みになっています。

773

774 **【金岡委員長】**

775 はい。ありがとうございます。本当にそこは難しいですね。

776

777 **【藤原委員】**

778 今のお話に関連しますが、生活支援体制整備事業で、多機関合同の研修をやっていて、その活動報告
779 が先日ありました。民間も含めた活動でしたが、やはり最初は顔を知ってもらうのも難しかったけど、
780 だんだん年数を経て顔見知りになり、無理も言える関係が出来てきた中で、フードコートを活用した認

781 知症カフェの開催という報告をいただきました。行政も一緒に、ケアマネジャーと生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、民間企業が連携したという報告でした。生活支援コーディネーターは
782 すごく地道に活動されていらっしゃると思います。やはり地域包括支援センターがやりたいことをぶつけ
783 ていき、難しいとは思いますが、そういう関係が築けるぐらいの年数の関わりになっていると思います
784 ので、そこをサポートされると、前に進んでいくのではないかと思います。以上です。
785

786

787 **【金岡委員長】**

788 共創の場、場づくりですね。はい。お願いします。

789

790 **【金城委員】**

791 すみません。松本委員にお聞きしたいのですが、企業と行政との繋がり、どのようにやってこれ
792 たのでしょうか。その話をお聞かせいただけますか。

793

794 **【松本委員】**

795 はい、ありがとうございます。先ほど岩名さんから、論点の中で、広域での可能性とあともう少しレ
796 イヤーの下、地元レベルの連携があったと思いますが、まず市町村で一番やりやすいのは、いわゆる個
797 人商店、パパママショップだと思います。そういったところのお客さんをいかに、ご紹介するかとい
798 たらちょっと言い方が悪いかもしれませんが、買い支えるっていう、まずそこから始めました。
799 商店を守っていく、もしくは彼らが新たな顧客を取り込めるような支援をしていく、それが一番市町村
800 としてはやりやすいです。

801 一方で、全国展開をするような大企業との連携で一番大切に難しいのは、新規サービスの開発部門と
802 連携することです。既存のサービスを売ろうとするマーケティング部門との連携だとサービス開発にな
803 らない。ですので、新規事業開発部門との連携が必要ですが、なかなか繋がれない。まさに、これが県
804 など広域行政の役割だと思います。

805 大企業は資本があるので、投資ができて新たなサービス開発にも体力があるという意味で非常に可能
806 性は大きいです。しかし一方で現場と繋がっていないという課題があります。結果的に作ったサービスが
807 高齢者に響かないということなる。いわゆる現場の市町村が知っている高齢者の暮らしにくさを語る
808 人と、そして大企業の新規事業開発部門の担当者の連携。あとは回数ですかね。そういった場の必要性
809 は非常に必要だなと思っています。

810

811 **【金岡委員長】**

812 はい。ありがとうございます。二つの視点があったと思います。商店街を救うためには売上が重要で、
813 本業で取り組むことが大切です。もう一つは大手企業の特長について、的確に発言いただきました。企
814 画部門との連携の重要性です。この解決のために、私たち熊本大学が取り組んでいるのは地域企業と大
815 手企業のコミュニケーションを円滑化する研修（越境学習）です。大手企業は地域のことが実感できな
816 いようです。このため私たちが行っている研修が重要になります。先ほどからとても重要な視点をご指
817 摘いただいています。ここで、離島についても、特徴的な視点があると思うのですが、豊見山委員、少
818 しお話伺ってもよろしいですか。

819

820 **【豊見山委員】**

821 小さい離島は、ほとんど同じだと思いますが社会資源がないわけです。企業がないからこそ人の繋が
822 りを活用していくしかない。うちは夫が郵便配達をやっていますので、住民に何かあれば、私に夕飯の
823 ときに話が来ます。あと、確実にガス、水道、電気の方は各世帯回りますので、たまたま水道の検針の
824 方が、パートで介護職員をされているので、その場合は「最近ゴミが捨てられてないよ」とかケアマネ
825 ジャーに連絡が行くっていう形で、本当に人のネットワークを使っています。なので、電気の方からも、
826 時々連絡が来ます。

827 もう一つ、在宅酸素をされている方が最近増えてきました。沖縄は必ず台風が来ますので、そのとき
828 は停電を覚悟で支援に入ります。土木建築業の方は発電機をお持ちなので、発電機を「台風が来るぞ」
829 となれば、その在宅酸素の方のお家のお庭に置いてもらって、いざというときには、それを動かしても
830 らうっていうのは必要だよなって話をしています。そこもひっくるめて民間企業さんと協定を結んでい
831 く必要があるなと思っています。

832 私は、やはりその、あれが使える、これが使えるというのを常に考えています。ただ、糸満市さんと
833 一緒に、どうアプローチしていったらいいのかっていうところを考えると、場を作るっていうことが大
834 切、それがプラットフォームということだと思っています。

835

836 **【金岡委員長】**

837 はい。ありがとうございます。これまでに多様な視点をいただきました。スタートアップの話から始
838 まり、高齢の 80 歳を超えた方の働く理由とそれを支える事業化の話、面白かったですね。多様なステー
839 クホルダーとの話し合いの場の重要性もご指摘いただきました。大手企業との連携における相手先の大
840 切さ、一方で離島における郵便局や人的ネットワークの重要性、発電機の話も面白かったです。まだま
841 だ 40 分以上時間もありますので、皆様方これで 1 回発言されたからと安心せずに、二つ目ぐらいまで
842 考えてもらって、いかがでしょうか。皆さん、どうぞよろしくお願いします。

843

844 **【田村委員】**

845 ちょっと資料配っても大丈夫ですか。

846

847 **【金岡委員長】**

848 いいですか。はい。どうぞ。

849

850 **【田村委員】**

851 企業との連携の話の続きですけども、私達の NPO の取組の中で、沖縄県内のファーストフード店の
852 A&W とコラボしました。A&W はコーポレートカラーがオレンジ色なので、(認知症ケアのシンボルカ
853 ラーである) オレンジカフェ、認知症カフェをしなないかっていうことを SDGs 繋がりで A&W の職員さ
854 さんと出会った関係で企画して、やっと 2 年ぐらい月に 1 回ですが開催してきました。

855 ところが、つい先日、A&W の担当者の方から、取組が自己満足にならないようにしなければなら
856 ないと言われたところでもあります。企業の内部でも取組に対していろいろな意見がでてきているわけ
857 ですので、私たちも戦略を立てて、数字もしっかり出していこうっていう話もしているところです。企
858 業の皆さんの理解を得なければ、取組が終わってしまうという危機感もっています。

859 一方で、地域包括支援センターが主催して、店舗だけを借りるという話になると、それでは、民間企
860 業の取組というよりは、ただの場所貸しになってしまう。民間企業が本当に主体的に活動できる場をど
861 うやって作っていくのかが一つ課題だと思います。

862 地域の活動は住民主体も含めて活発になっていますが、この手の話は、同じような話を繰り返してい
863 る気もしていて、閉塞感を打破するヒントがあったらよいと思っています。もちろん、取組は継続した
864 いという思いは持っています。

865

866 【金岡委員長】

867 たびたび指摘されている点です。国の政策の中でもボランティアは続かないので企業活動として取り
868 組めないか、いざ企業活動として考え始めると、営利活動とのせめぎ合いが生じます。最近はパーパス
869 経営など新しい経営の考え方も注目されています。この議論は報告書のどこかで引き取っていただくこ
870 とを検討するのは、どうですか事務局としては。

871

872 【事務局】

873 この葛藤については、例としてもわかりやすかったと思いますし、A&W って沖縄ではすごくブラン
874 ドとして大きい。そういう企業が取り組むと、住民の方の参加意識だとか、注目が集まる。だから、そ
875 れだけの力を発揮していただいていることを周囲も適切に承認するようなことも、行政側も行う必要が
876 あると思います。それからアワードみたいなやるところもあったりしますけれども、取り組む側の企
877 業の担当者や部署を守るっていうことも、こちらも頼っている以上必要なのかなという、そういうご指
878 摘として理解をしました。お願いする一方になりがちということもあると思いますので、とても参考に
879 なりました。ありがとうございます。

880

881 【金岡委員長】

882 はい、ありがとうございます。どういう形かというのは、ちょっと引き取らせていただいて、考えて
883 いければと思います。ありがとうございます。

884

885 【神戸委員】

886 民間企業の立場からお話します。先ほど、金城委員がおっしゃいました企業との付き合い方について
887 ですが、私たちは営利団体ですね。例えば担当者会議とかケア会議とか言われている会議も、保険外サ
888 ービスの事業所が呼ばれます。行政の方とか、介護保険の事業所になると、「いや、無料で来るでしょ」
889 という感覚があります。もちろんその気持ちはあります。でも、介護保険は税金が投入されているし、
890 行政職は給与が入っているから時間を心配する必要もないので参加できますが、民間の保険外サービ
891 をやっている零細企業になると、どこからも配慮がありません。なので、実はご家族のご希望があれば、
892 費用をいただいて参加しています。そういうことをケアマネさんに話したり、行政の方に話すと、「高齢
893 者からお金取るんですか？」といった雰囲気も感じます。企業は企業なりの課題も抱えていますし、大
894 手はそれなりに別ところで収入の柱があります。収入の柱があるからこそ、社会貢献事業が回せるわ
895 けですが、保険外サービスを運営する小さい事業者も多く、無料でやって当然とか、ワンコインでやる
896 の当たり前となると、持続可能な経営ができなくて潰れていくわけです。そうした部分への理解とか、
897 例えば情報いただけるのであれば、こういう補助金がありますよとか、支えてくださると、みんな喜ぶ

898 んじゃないかなと思います。以上です。

899

900 **【金岡委員長】**

901 はい、その通りだと思います。中小企業庁が零細企業は地域課題解決に取り組み生き残るべきだと提
902 言する時代になりました。しかし、簡単にはいきません。本当に言いづらいことをご指摘いただき、あ
903 りがとうございます。

904

905 **【松本委員】**

906 市場で成り立つものと成り立ちにくいものがあるのは確かで、例えばデイサービスの代わりとなるよ
907 うなものとしては、スポーツジムですけれども、名古屋市でも、月枠大体5~6千円で通いたい放題で、
908 リハ職がいて、メディカルスポーツジムといった形で、50代以上の方、高齢者を対象としたスポーツジ
909 ムは増えています。これは、おそらく市場でも成り立つと思います。一方で、ホームヘルパーについて
910 は、民間の価格は利用しにくいというのも事実です。

911 市場で成り立っているものに公金投入する必要はないので、それよりも新しいサービスを開発するた
912 めの、例えばデータの提供ですとか、市町村においてはトライアルの実施の協力ですとか、そういった
913 ことで官民連携ができますし、一方で、その市場で成り立ちにくいサービス、もしくは非常に例えば不
914 便なところ、輸送コストが非常にかかるとか、こういったものについては介護保険の何かしらの適用を
915 しながら、公金を入れていく必要もあると思います。

916 論点の1についてですが、先ほど沖縄県のデイサービスの利用が全国よりも3倍近いという話があり
917 ました。これは今後を考えると、多様な価値観とか趣味嗜好がある高齢者が増える中、今後もデイサー
918 ビスという選択肢しかなくていいのだろうか、と考えます。というのは、ウェルビーイングという観点
919 からすると、心もとないとか、もったいないとか、悲しいことだなと思いました。今はデイサー
920 ビスに全ての機能が寄りかかっている状態だと思いますが、少しその機能を分化して、民間とか多様
921 な主体で解決できるところは作っていくべきではないかと思います。

922 訪問とか通所という区分に関係なくお話ししますが、例えばデイサービスの機能でいうと先ほどのよ
923 うな、例えば会話とか交流、相談機能、見守り機能とか機能訓練機能とかっていうのがあると思います。
924 こういったものは、機能を分解すると他のサービスで代替可能だと思います。

925 一方で、ヘルパー需要が本当になのかという点は甚だ疑問です。私は訪問と通所というのは通いと
926 訪問という括りというより、集団とマンツーマンだと思っています。つまり、その沖縄県でデイサービ
927 ス一本頼みということは、ほとんど集団でケアするしか選択肢がないということなので、先ほどの知事
928 のご挨拶の方にもありましたけれども、高齢者が多様な選択肢の中から選ぶことができない状態になっ
929 ているということです。ですからデイサービス機能を分解して考えるのが一つの方向性だと思います。

930 2番目の高齢者を中心に据えたサービス開発の可能性ですが、地域共生社会というような考え方も先
931 ほど出ていましたが、受け手とか支え手という関係を越えるという意味ですので、例えばデイサービス
932 一つにとっても、サービスの受け手であると同時に、支え手にもなっているような両者ウィン-ウィンの
933 活動に参加していただく方法もあると思います。

934 例えば、豊明市の場合、ある高齢者の庭の草むしりをするのに、虚弱な高齢者数人まとめて、指導員
935 みたいな人がついて、お連れしてみんなで草を抜くといったことは認知症の方でもできますが、通常支
936 えられるはずの高齢者の方が、誰かのために活動してありがたいと言われるという、これ通所でもあり

937 訪問でもあるということだと思います。こういうことを循環できるようなことを作っていけば、通所と
938 いわゆるホームヘルプというものが分け隔てなく、もしくは支えてる側と担い手というのが分け隔てな
939 くできるわけで、こうした可能性も探ってはどうかと思います。

940 もう一つ、本人が中心となったサービス開発ですが、話が出ていないと思うのは、身寄りのない方と
941 か家族の支えが得られない人たちに対する、例えば日常の金銭管理ですとか、いろんな手続きとか、そ
942 ういったものが受けられる仕組みを作ることも大切だと思いました。

943 最後に、見守り機能ですと、例えばIoT端末、ペットカメラとか、リモートで操作できるような鍵
944 があると思うんですね。これも格安の品を提供すれば、遠く離れた家族が見守ったり、声をかけたりで
945 きますが、これをデリバリーする、設置する機能がない。世の中にある便利なものを上手に活用して、
946 ちゃんとお届けして、設置して使えるようにするっていうことも大切な視点だと思います。

947

948 **【金岡委員長】**

949 はい。ありがとうございます。いくつかの視点をいただいたと思います。市場が成り立つところ、成
950 り立たないところといったところから始まり、論点1と2で新しくサービスを分解してみましようとい
951 う提案をいただきました。さらに、両者ウィン-ウィンの観点など、いろいろな言葉が出てまいりました
952 ので、ぜひ事務局の方はこれらを組み込んでいただければと思います。

953

954 **【岡本委員】**

955 今の松本委員がおっしゃった選択肢がないっていうのは、本当にそう思います。岩名さんがさっき言
956 ったように沖縄県の通所サービスの利用率が高いっていうのは、住宅型有料老人ホームがかなり影響し
957 ていると思います。そこを除いた場合、軽度者でデイサービスに行きたいっていうのは、少し弱ってき
958 たから予防のために行きたいっていうのが一番多い。二つ目が、食事が取れないから、お風呂が入れな
959 いからっていうようなのが経緯としてある。

960 一人暮らしの男性で食事は自分で作れないのでヘルパー利用というのはよくあるケースですが、例え
961 ばそこを冷凍食品だとか、家事支援で1週間作り置きして電子レンジで温めて食べるといったサービス
962 があれば、この人は介護保険サービスを使わないで済みます。よく窓口で話し合っていることです。

963 今、そういうサービスは、あることはありますが使える地域と使えない地域っていうのがあるわけ
964 です。是非その辺ですね、取組が広がっていくような話があったらいいと思っています。

965 保険外の家事支援の方に入ってもらって1週間に1回作り置きしてもらうサービスの場合、いろいろ
966 調べると、サービス提供者の経験値によって、単価が違ってきます。はじめたての人は1時間1500円、
967 上手で評判が高い人は2000円/2500円とか、分かれています。じゃあ、「あんまり美味しくなくてもいい
968 から1500円でいこう」とかっていう選択もあるでしょう。そういうものがあると、食事の問題を解決す
969 る一つの選択肢になると思いました。

970 あと沖縄で多いのが、外出移動支援について、高齢者になって免許返納した後、いろんな社会活動が
971 低下してしまう。それが要介護の大きな要因になっているということは、もう最近よく感じていて、こ
972 の話の中で取り上げられるといいかなというふうに思っています。以上です。

973

974 **【金岡委員長】**

975 はい、ありがとうございます。はい。では。

976

977 **【神戸委員】**

978 先ほど、松本委員から事業、いわゆるサービスを分解するって話を伺いましたけど、もしかしたら、
979 沖縄県がデイサービスの利用が高いというのは、人材不足の中で効率良くサービスを回すため、一つ
980 の場所にまとめてお世話する方がいいという意味もあるのかなと、ふと思いました。これをもし分解す
981 るとなると、マンツーマンでサービス提供しますから移動にも時間がかかりますし効率が非常に悪くな
982 る。こうなったときに、今の保険制度に頼ってしまうと、やはりその時間も資格の問題もあるので、も
983 うここは保険外が入って、料金は措いたとしても、志のあるベテランの元介護職の高齢者に入ってい
984 たく方がいいのではないかと思います。以上です。

985

986 **【金岡委員長】**

987 はい。ありがとうございます。ほか、どうぞ。いい感じになってきましたね。

988

989 **【藤原委員】**

990 ちょっと関連して、先ほど岡本委員が結構近隣の人に頼っているという話をされましたが、広島では
991 なかなか難しいと思うので、そこは多分沖縄の強みだろうとおもいます。そういう近隣のお互い様とい
992 う仕組みも大切ですし、そうした助け合いが難しい、あるいは、嫌だと言う人も絶対にいるので、そう
993 いう方は保険外サービスという形もあるでしょう。また屋外でできるサービスは近所の人でもいいけど、
994 家の中に入ってくるサービスは近所の人ではなく知らない人がいいとかいう感じで、ちょっと分けてサ
995 ービスを組み合わせるといふこともあるでしょう。

996

997 **【榎野副委員長】**

998 内地からこちらに移ってきて感じるのは、まだまだコミュニティが機能しているということです。那
999 覇はやや微妙ですが、地方に行くと特に、模合とか青年祝いなどが残っていて、人が繋がっています。
1000 繋がりを絶っていく高齢者ももちろんいますが、要支援もしくは要支援予備軍への支援ということで考
1001 えると、確実に沖縄の中で強みとしてあるのは、そもそも人との繋がりが比較的残っている点だと思
1002 います。この資料の中にも、植木鉢の絵に、介護予防・生活支援のところに、「近所との付き合い」、「友人・
1003 知人」、「井戸端会議」とか出ていますが、残っています。こうした人の繋がりをいかに、より生かして
1004 いくかっていう視点はあって然るべきだと思います。

1005

1006 **【金岡委員長】**

1007 はい、ありがとうございます。大手の住宅会社は、ご指摘のコミュニティをわざわざ作る住宅企画商
1008 品を展示しています。片付けが出来ていなければ、みんなで掃除イベントをやりましょうとかですね。
1009 沖縄にはすでにコミュニティがあるのならば、それが武器になるかもしれません。はい。ありがとうご
1010 ざいます。

1011

1012 **【田村委員】**

1013 ちょっと話を戻しますが、保険外サービスについて、例えば、うちも訪問介護事業をやっていますが
1014 職員1人当たりの手取りの収入も保険外を組み合わせることによって引き上げられるように思います。

1015 人材確保を考えても、もうみんな最近では別の産業で働く人が多くなっているの、介護人材を呼び戻す
1016 ときに何か新しいアイデアとか、介護サービスで手取りを増やそうっていうメッセージが必要だと思
1017 います。さっきの医療とか介護、福祉でお仕事する人は、稼いじゃいけないみたいな、そんな風潮があ
1018 ると若者がついて来なくなる。どんどん稼いでいいということを、県として言ってもらいたい。私の娘
1019 も、「お父さんの会社で働くか」って言っても、絶対働かないですよ。沖縄の職員の所得を上げるという
1020 ことも大事だと思いました。

1021

1022 **【金岡委員長】**

1023 いい指摘だと思います。率直なところをご指摘いただき、結果を報告書に盛り込むヒントをこのよう
1024 にご発言頂けるのが素晴らしいと思います。ありがとうございます。はい。他いかがでしょうか？

1025

1026 **【松本委員】**

1027 論点の最後の二つのあたりをお話したいと思いますが、例えば、民間企業の新たなサービスを創出し
1028 て、地域の中に展開していくときの行政と生活支援コーディネーターの役割ですが、私達の自治体は民
1029 間企業との連携が非常に盛んなこともあって、様々な大手企業からあらゆる提案が来ます。そういった
1030 企業の中には、「ある市町村ですでに導入いただいています」と、一つ二つの例を出して持ってこられま
1031 すが、ニーズにあったものがなかなか出てこない。企業の方は、行政職員に話を聞いてサービスにした
1032 と言っている。

1033 何が言いたいかというと、企業はいろんな市町村でトライアルをしているけど、やり方を間違えると
1034 ニーズに合わないものが作られてしまう。必ずしも、行政の職員が高齢者の本当の真のニーズを理解し
1035 ている訳ではありません。現場のケアマネジャーやヘルパーさんに話をほとんど聞いてない。要は、そ
1036 こにチャンネルがないわけですね。企業と高齢者ビジネスを作るときには、本当に現場の支援をやっている、
1037 高齢者の暮らしの実態をよくわかっている人たちと引き合わせないと、行政職員と引き合わせても
1038 ほとんど意味がないと思います。

1039 生活支援コーディネーターと行政の役割ですが、生活支援コーディネーターにサービス開発まで求め
1040 ると、かなり荷が重いと思います。彼らの一番の強みはソーシャルキャピタル、人の繋がりの部分であ
1041 って、その生活支援コーディネーターの口コミ力というか、人を知っている、その力を使って企業の開
1042 発部門と合わせて、何かプロトタイプを試行するといったことをやっています。

1043 あと、行政の役割ですが、ほとんどの自治体の職員は公平性の観点から一つの企業と組むっていうこ
1044 とが、多分怖いし、嫌がります。そこは、やはりその明確に方針を出し、この介護サービス一本頼みで
1045 はない、多様な選択肢を増やしていくということであり、その間口は広く、いつでもオープンである
1046 という、そこに公平性はあるのであって、例えばトライアルで一企業と組んでやるっていうことは何も不
1047 公平なことではないと。こういった行政職員が一步踏み出しやすいような何かしらの方針みたいなもの
1048 を、県に打ち出していただければ、市町村としては取り組みやすいと思います。以上でございます。

1049

1050 **【金岡委員長】**

1051 はい。多岐にわたりありがとうございます。先ほど私は愛着という言葉を使いましたが、あるいはソ
1052 ーシャルキャピタルと言ってもよいでしょう。また、面白かったのは公平・不公平の観点。地域連携に
1053 は不公平に見える要素がありますが、言葉を変えると戦略的対応です。これを戦略的に取り組む視点を、

1054 県庁が示してくれれば、これは面白いですよ。あともう一つ I o T ですね。なかなか導入が進まない。
1055 進むところと進まないところがある。ここは皆さんどうやったら進められるのか、ぜひ考えてもらえれ
1056 ばと思います。

1057 さらにお聞きしたいのですが離島だとどうですかね。I o T を入れるというのはなかなか難しいので
1058 はないでしょうか。率直な感想でいいです。お願いします。

1059

1060 【豊見山委員】

1061 与那国町さんが N T T さんと連携をして、高齢者一人ひとりにカードみたいなのを持たせて、体重を
1062 図るときにそれを置くと、データが診療所に行ってみたいのをやっていたというのは知っています。
1063 島で I o T 入れようとする、まず後期高齢者の方がだいぶお世話しないと出来ないなあというところ
1064 もありますし、また、家族とはいえ家の中にずっとカメラがあるっていうのは嫌がるかな。見守りとか
1065 で、それ位だったら、隣の人に電気ついていない時は電話ちょうだいっていうことで成立しているところ
1066 もあります。どうですかね、そういう感じでしか、ちょっと想像出来ません。

1067

1068 【松本委員】

1069 私達の自治体が、一つ一つのケースを見てみると、やはり驚かされるほど、I o T を結構使っていま
1070 す。例えば高齢者になると電話に出ない人が多くなります。それはオレオレ詐欺防止であり、また耳が
1071 遠いということもあるし、まただんだん電話を取るということさえできなくなるということがあるわけ
1072 ですが、そのときに呼びかけ機能が付いたデバイスがあって、応答ボタン押さずに「お母さん」と呼び
1073 かけると、スピーカーから「お母さん」と声が出てくる。こういったデバイスがあります。こういった
1074 ものであれば、多分そんなにストレスなく使える。Wi-Fi 環境とか SIM 付きの格安の物を、Wi-Fi 環境
1075 を整える必要はありますが、それさえできれば、おそらく出来ると思います。

1076 あと私達が結構驚かされるのは、キャッシュレス決済。これもかなり高齢者の方が使っている印象で
1077 す。例えば、支払い履歴が家族に通知されるので、実はそれが見守り機能になっている。もしくは認知
1078 症の方とか、現金が扱えないとか、チャージをしておいて、その範囲内で使っていただくということで
1079 家族が工夫しているとか、我々の市でも、息子さんご家族が、海外から見守り端末とかそういったもの
1080 を使って見守りをしているということもあります。

1081

1082 【金岡委員長】

1083 はい。どうでしょう。はいどうぞお願いします。

1084

1085 【神戸委員】

1086 私の事業所でも、とある中山間地域での見守り事業を作っている最中です。介護保険認定を受ける手
1087 前の人たちで、孤独であり、ヘルパーさん、ケアマネさんと繋がってない人たちに LINE を使った見守
1088 りを検討しています。ほとんどの高齢者がどんな経済能力であったとしても、スマートフォンは大体持
1089 っています。LINE が使えるので、LINE を使った見守り機能をやりましょうと。介護認定が下りた後は、
1090 そこはもう介護保険に任せましょうという話で、要介護も含めたすべての高齢者をスマートフォンで見
1091 守るのには限界があるかと思っています。要介護認定以前の方を切り分けて適材適所にやっていくのが
1092 いいのではないかと試行錯誤しています。

1093

1094 **【金岡委員長】**

1095 はい、ありがとうございます。もう一つ論点 4 の圏域連携、少し大きな視点なので話し辛いかもしれ
1096 ませんが、もし最後にあればご意見をいただければと思います。

1097

1098 **【岡本委員】**

1099 介護保険広域連合の中で、毎月 1 回定例の情報交換会をずっと持っていました。北部だけの情報交換
1100 会を始めるときに広域連合の構成市ではない名護市に入ってもらいました。北部地区の三村にはサービ
1101 ス事業者が十分にはありません。訪問看護や訪問診療、訪問介護も多くのが名護市にある。だから
1102 名護市に入っていました。特に、離島や北部三村に関して、それぞれの市町村・自治体で取組を
1103 進めるのは、ちょっと厳しいだろうと思うので、やはりこの広域的に取り組んでいくことが必要だと思
1104 います。多良間村も単独は難しく、きっと宮古島市とか石垣市と一緒にやって取り組まないと展開でき
1105 ないようなことがあるのではないかと思います。

1106

1107 **【金岡委員長】**

1108 はい。ありがとうございます。本当に、そうだと思います。どうぞ。

1109

1110 **【松本委員】**

1111 大企業がビジネス創出するとき、1 市町村だけのために新規事業開発できないので、基本的には全国
1112 を狙います。その際、最初は体力もありますので投資できますから 1 自治体では損してもいいわけです。
1113 ただ私達も心がけていますが、豊明市だけに適用できるものでは駄目で、必ず全国に展開できるような
1114 サービスモデルを一緒に作るお手伝いをするようにしています。1 自治体のサービスモデルはガラパゴ
1115 ス化してしまう。この辺りはやはり県や広域の視点が必要だと思います。大手企業は、どれぐらいの規
1116 模の顧客で損益分岐点を超えるか、その道筋を意識して投資の判断をしています。利益が出る見込みが
1117 あって初めて新規開発部門から事業部門に転換するわけです。そういう視点が必要なので、だからこそ
1118 1 自治体での開発は厳しくて、広域・県全体での支援が必要だと思います。以上です。

1119

1120 **【金岡委員長】**

1121 はい。ありがとうございます。この視点も面白いですね。経済地理学という学問体系がありますが、
1122 大手企業の支店配置としての企業行動が、札幌広福と呼ばれる中核都市を拠点とする階層的な広域プロ
1123 ックを形成していますが、この都市特性によって日常生活のサービス提供の考え方が異なり、それに即
1124 した都市機能配置を地域づくりでは考えられてきました。しかし、沖縄はおそらく特別だと思います。
1125 沖縄だけで閉じていると思います。携帯会社が典型事例だと思いますし、大手企業・ブロック、それと
1126 県の経済団体が会員企業である県の中堅企業さん、沖縄経済圏域の特性をどう考えるか。ご発言があ
1127 るのではないのでしょうか。

1128

1129 **【栩野委員】**

1130 大手企業の話は非常に勉強になるのですが、直感的に大手企業だとピンとこないのがあります。おっ
1131 しゃる通りで、沖縄では地場の企業が強い。特に、この領域だと多分莫大な利益を生むようなビジネス

1132 は難しいので、基本的には地場であるとか、スタートアップ系の方が相性がいいかなと思っています。
1133 一方で沖縄は仕事がなく困っている人は結構たくさんいて、あと社会的な課題としてシングルマザー
1134 が多いので、この人たちにどうやって、仕事を提供するかという課題もあります。社会課題系のスタートアップの人たちは、こっちで困っている人とこっちで困ってる人をうまく組み合わせれば十分成り
1135 立つといったところに目鼻が利くので、小回りの利くビジネスはすぐに生まれるのではないかと思います。
1136
1137

1138

1139 **【金岡委員長】**

1140 はい、ありがとうございます。もう少しお伺いしたいのですが、そろそろお時間でございます。こう
1141 いう場で企業行動の話が出てきたのは、本日の会議は非常に面白かったと思います。冒頭で知事から既存
1142 の枠組みにとらわれずといったご挨拶があったと思います。本日は、既存のサービスを分解するとの
1143 視点が提示されました。都市部あるいは離島を含めて、それぞれがどうやっていくのか、新しくローカ
1144 ルイノベーション、革命を起こしていくというところも出てきたと思います。本日、いろいろな意見が
1145 出ましたが、事務局がきっちりと議事録を作るとしますので、そちらを整理していただいて次回の会
1146 合に繋げていってもらえればと思います。これで事務局に返してもよろしいでしょうかね。

1147

1148 **6. 閉会**

1149 **【事務局】**

1150 はい。金岡委員長どうもありがとうございました。委員長始め委員の皆さま、本日は活発なご議論を
1151 いただきまして、誠にありがとうございます。第2回目は12月18日に開催の予定となっております。
1152 また、本日は県庁内会議室で開催をいたしました。第2回目は、高齢者の通いの場でありますとか、
1153 公共私連携をイメージできるような、中部もしくは南部の地域の会場で開催を計画したいと思います。
1154 可能な限り現地にお越し頂いての参加をお願い出来ればと思います。詳細につきましては、改めて事務局
1155 の方からお知らせをさせていただきます。それでは、以上を持ちまして、本日の会議を閉会いたします。
1156 本日は、ご多忙の折、ご出席いただき、本当にありがとうございました。

1157

1158

以上